

鳥 扱 い 注 意 。



中国、インドネシア、カンボジア、ベトナム、エジプトなどでは、
最近も鳥インフルエンザ患者が発生しています。

特にアジアやアフリカ、中東に旅行されるみなさま、

現地でニワトリやアヒルなどを飼育している場所、

鳥が売買されている市場に近づかないでください。

鳥の死骸やフンには絶対にさわらないでください。

帰国時に具合が悪い方や、現地で鳥の死骸などに

触ったと思われる方は、検疫所の担当官にご相談ください。

また、帰国後、10日以内に具合が悪くなった場合には、

医療機関を受診し、「鳥インフルエンザの発生地域に渡航していた」ことを伝えてください。

ご不明な点は、最寄りの保健所にご相談ください。

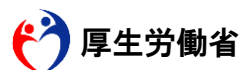


Bird



in Foreign Countries

海外では、動物と距離をとろう。
Please Keep Your Distance.



蚊 意外にキケンあり。



マラリア、デング熱、チクングニア熱といった、蚊が媒介する感染症が、

世界中の熱帯・亜熱帯地域で流行しているのをご存じでしょうか。

「蚊にさされた程度で」とあなどるなかれ、

場合によっては命にかかわる病気にかかることも。

海外の蚊は意外にキケンがいっぱいなのです。

熱帯・亜熱帯地域へ旅行されるみなさま、現地では長そでと長ズボンの服を着たり、

虫よけスプレーや蚊取り線香を使ったりして、蚊にさされないよう十分にご注意ください。

現地で蚊にさされて熱が出た場合は、早急に医療機関を受診しましょう。

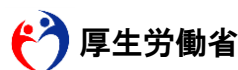
帰国時に発熱などがある場合には、検疫所の担当官に

ご相談ください。



in Foreign Countries

海外では、動物と距離をとろう。
Please Keep Your Distance.



動物とは

離し上手に。



さまざまな国で、さまざまな動物から
狂犬病に感染するキケンがあります。
海外では、動物と距離をおきましょう。

狂犬病は、日本ではあまりなじみがありませんが、海外では今なお、
先進国でも発生している感染症です。

発症した犬だけでなく、猫、コウモリ、キツネ、アライグマなどに
かまれてうつることがあり、発症したらまず助かりません。

現地では、素姓のわからない動物とは上手に距離をとって、
むやみに近づいたり、さわったりしないでください。

現地で動物に咬まれた場合は、すぐに傷口を石鹸と水で洗い、医療機関を
受診しましょう。感染の恐れのある場合は、帰国時に検疫所にご相談ください。



Dog etc.



in Foreign Countries

海外では、動物と距離をとろう。
Please Keep Your Distance.

